

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

独居認知症高齢者の家族の支援ニーズに関する研究

研究分担者 石崎達郎 東京都健康長寿医療センター研究所研究部長
研究協力者 涌井智子 東京都健康長寿医療センター研究所研究員
研究協力者 中山莉子 東京都健康長寿医療センター研究所非常勤研究員
研究代表者 栗田圭一 東京都健康長寿医療センター研究所副所長

研究要旨

本研究は、認知症独居高齢者の家族が、高齢者の生活および介護を支える上での課題と支援ニーズを明らかにすることを目的に、既存文献を精査し基礎的資料を得ることを目的とした。認知症独居高齢者の家族が抱える課題は多岐にわたり、支援体制上の課題も報告された。独居で認知症高齢者らの家族に特化した研究は極めて少なく、今後、独居の認知症高齢者らの家族の課題および支援について、エビデンスの高い研究の蓄積が必要である。

A. 研究目的

本研究は、認知症独居高齢者の家族が高齢者の生活および介護を支える上での課題と支援ニーズを明らかにすることを目的に、既存文献を精査し基礎的資料を得ることを目的とした。

高齢者の親族が別居にて介護を行っており、課題を含む 11 論文を対象論文とした。また支援については、151 件を精査し、会議録を除き、認知症高齢者の親族が別居にて介護や生活支援を行う内容を含む 10 件を対象論文とした。(表 1、表 2、表 3、表 4 を参照)

B. 研究方法

PubMed において、distance care/live-out care/non-coresident care、dementia/cognitive impairment、living alone/solitary、family に issues または support を加えて検索を行った。医学中央雑誌 Web 版において独居高齢者、認知症、家族、別居介護/遠距離介護/通い介護に、課題/困難、または支援を加えて検索を行った。課題について検索された抄録 62 件を精査し、会議録を除き、認知症高

(倫理面への配慮)

文献を取り扱う際には、著作権を侵害することがないように配慮した。

C. 研究結果

認知機能の障がいとともに独居で生活をしている人は、世界的に 4600 万人いると推計されている (Gibson et al., 2017)。日本では、要介護になった後も独居で生活する要介護者の割合が増えており、2004 年頃までの独居の要介護高齢者の多くは親族介護

者のいないものであったが、近年は独居の要介護高齢者の半数に別居の家族がおり、別居での介護を選択する高齢者と家族が増えている（涌井, 2020）。これらの別居での介護を続ける背景には、家族形態や生活パターンの変化などが上げられる(White et al., 2020)。今後も独居の要介護高齢者が増加することによって、別居での介護は増加することが見込まれ、独居認知症高齢者の家族が直面する課題および支援ニーズの把握の重要性が示唆されている。

【認知症独居高齢者の家族が直面する課題】

独居認知症高齢者等の家族は、高齢者本人の安全や状況の確認を頻繁に行うことが難しく、体調が悪いなどの緊急時に対する対応が遅れてしまうといった課題に直面していた。これは、物理的な距離が離れているために確認の頻度が少なくなってしまうという理由に加えて、電話などで確認を頻回に行ったとしても、高齢者本人が不調を隠すなどの背景が理由となっている（White et al., 2020）。また、高齢者本人がサービス利用を拒否するなど、他者の支援の介入を嫌がることで、家族が高齢者本人の安全等の確認の障がいになるといった状況も報告される(川上, 2010)。そもそも、高齢者がオーブンやガスの使い方を忘れてしまって、火事になりかけるなどの火の不始末や、雇用した便利屋やプライベートナース等の導入によって物を盗まれる、お金を引き出されるなど、高齢者本人が騙されるリスクがあり、高齢者の経済面の管理についての課題も報告されている(Gilmour, 2004)。

また別居による家族が抱える課題としては、別居介護にかかる経済的負担(松本,

2003)、高齢者の安全や状況の確認を頻回に行えないことに対する不安(White et al., 2020)、別居介護の継続による精神的健康の悪化(松本, 2003)、家族自身の加齢等の理由により、通って介護するための時間的・体力的な負担(White et al., 2020; 岩藤ら, 2013)、高齢者の意向と自身の意向とのすり合わせの難しさがあげられている(浜田ら, 2018)。加えて、支援体制に関する課題として、介護スタッフ等が期待する家族の役割として、同居が前提となっているなどの理由により、別居介護に対する理解が得られないこと（松本, 2003）、別居介護に関する支援情報の不足(浦上, 2019; 木村, 2011)があげられた。また、高齢者と介護者の居住地域が異なることによって、高齢者の居住地域で提供される家族向けの支援対象から外れるなどの課題(White et al., 2020; 木村ら, 2011)、支援者と家族との間で高齢者本人についての知識の競合が生じる(中川, 2015)などの課題も報告されている。

【認知症独居高齢者の家族を支援する対策】

まず、高齢者本人の生活支援、介護サービスの利用、高齢者本人の日常的な話し相手の確保等が支援として報告される(川上, 2010; 岩藤ら, 2013)。これらは、高齢者本人の生活支援のために提供される支援となり、別居の家族が提供する手段的介護に代わって提供される支援として位置づけられている。他には、高齢者の見守りを目的としたモニタリングデバイスなどが報告される(Fowler-Davis et al., 2020; Mulvenna, 2017)。高齢者本人の日常の生活（活動）をモニタリングすることにより、高齢者の見守りを実現する支援となるため、家族の主

観的な介護負担感が軽減したとされる一方で、高齢者と家族両者の Well-being の低下が報告される(Fowler-Davis et al., 2020)。モニタリングシステムの導入に際しては、認知症高齢者の Autonomy(自律)や Freedom(自主性)の欠如といった側面の倫理的な議論が有り、家族が支援としてこれらのモニタリングデバイスの導入を前向きに受け入れる一方で、支援として導入することへの倫理的課題があることが報告されている(Mulvenna et al., 2017)。

加えて、介護スタッフやケアマネジャーといった支援者が高齢者と介護者の間に入り関係をつくることを目的とした支援も報告される(岩藤ら, 2013; 木村ら, 2011)。家族に対して、介護スタッフ等の支援者が、「別居介護者自身の生活が維持可能な支援体制の構築」や「支援者全員の支援の方向性のすり合わせ(担当者会議の開催)」「主介護者以外の家族によるサポートを得る」等を行い、支援の仲介役となることで支援体制全体を調整・構築することにより、独居の高齢者と家族を支える支援となっている。

D. 考察

特に日本の場合、主介護者が一人で介護を担うことが多いため、介護が一人の家族に集中しており、同居であれば他家族の家事援助の中で自然と得られる間接的支援を得ることができず、すべての介護役割を一人で担わざるを得ないといった課題も懸念される。しかしながら、認知症の独居高齢者とその家族に対する支援体制における課題として、そもそも別居介護に対する理解がないこと、別居介護に関する支援情報の不足があげられており、別居介護に対する

支援は同居介護の場合に比べて、極めて限定的である。別居介護者への既存の支援、あるいは必要とされる支援として報告されるのは、高齢者本人へのサービス提供を中心とした介護サービスや、別居介護者自身の私的ネットワークに依拠した近隣に住む親族の助けや他の家族の協力的な介護体制などであり、日本だけでなく国外の状況を見ても、別居の介護者を支援するための十分な対策が取られているとは言えず、対策が待たれる。

加えて、今後支援の充実が必要とされる点については、横断的な支援だけでなく、持続的な関わりが必要であり、別居での介護が開始された後の支援だけでなく、別居という介護生活を開始する前に、準備情報の提供などの支援等も期待される。

全体として、独居で認知症高齢者らの家族に特化した研究は極めて少ない。今後、独居の認知症高齢者らの家族の課題について、エビデンスの高い研究の蓄積が必要である。

E. 結論

本研究は、認知症独居高齢者の家族が高齢者の生活および介護を支える上での課題と支援ニーズを明らかにすることを目的に、既存文献を精査し基礎的資料を得ることを目的とした。独居で認知症高齢者らの家族に特化した研究は極めて少ない。今後、独居の認知症高齢者らの家族の課題について、エビデンスの高い研究の蓄積が必要である。

F. 研究発表

- 1) 涌井智子. (2022). 特集「認知症とともに一人で暮らせる社会環境の創出に向けて」認知症の独居高齢者の家族支援

を考える. 老年精神医学雑誌, 33, 276-281, 2022.

- 2) 涌井智子. (2021). 在宅介護における家族介護者の負担感規定要因. 社会保障研究, 6(1), 33-44, 2021. DOI: doi/10.50870/00000217.
- 3) 涌井智子. (2020). 特集「一人暮らしの認知症高齢者」国民生活基礎調査からみる独居高齢者のケアの実態と今後への示唆. 老年精神医学雑誌, 31(5), 467-473, 2020.

G. 知的財産権の出願・登録状況
該当なし

表 1 認知症独居高齢者の家族が直面する課題に関する文献検索

【認知症独居高齢者の家族が直面する課題】		
検索日	2021年8月18日(医中誌) 2021年8月26日(PubMed)	
論文検索サービス	検索式	検案件数
PubMed	#01 Dementia OR “cognitive impairment”	231,377
	#02 “living alone” OR solitary	58,130
	#03 #02 AND family (“living alone” OR solitary) AND family	3,234
	#04 “distance care ” OR (“live-out” OR “non-coresident”) AND care)	71
	#05 #01 AND (#03 OR #04) (Dementia OR “cognitive impairment”) AND (((“living alone” OR solitary) AND family) OR (“distance care ” OR (“live-out” OR “non-coresident”) AND care)))	109
	#06 #01 AND #03 (Dementia OR “cognitive impairment”) AND (“living alone” OR solitary) AND family	104
	#07 #04 OR #06 (“distance care ” OR (“live-out” OR “non-coresident”) AND care)) OR ((Dementia OR “cognitive impairment”) AND (“living alone” OR solitary) AND family)	176
	#08 #07 AND (issue OR challenge OR difficulty OR trouble) (“distance care ” OR (“live-out” OR “non-coresident”) AND care)) OR ((Dementia OR “cognitive impairment”) AND (“living alone” OR solitary) AND family) AND (issue OR challenge OR difficulty OR trouble)	37
医中誌	#01 (独居高齢者/AL and (認知症/TH or 認知症/AL))	124
	#02 #01 AND (家族/TH or 家族/AL) (独居高齢者/AL and (認知症/TH or 認知症/AL)) AND (家族/TH or 家族/AL)	109
	#03 (別居介護/AL or 遠距離介護/AL or 通い介護/AL)	29
	#04 (#02 OR #03) AND (課題/AL or 困難/AL) ((独居高齢者/AL and (認知症/TH or 認知症/AL) and (家族/TH or 家族/AL)) or (別居介護/AL or 遠距離介護/AL or 通い介護/AL)) and (課題/AL or 困難/AL)	31
	#05 #04 AND (PT=会議録除く)	22
ハンドサーチ	データベース検索から抽出した文献の引用文献等	3

表2 認知症独居高齢者の家族が直面する課題に関する採用論文リスト

採用論文リスト	<ol style="list-style-type: none"> 1) Gibson AK, Richardson VE. Living Alone With Cognitive Impairment. Am J Alzheimers Dis Other Demen. 2017 Feb;32(1):56-62. doi: 10.1177/1533317516673154. Epub 2016 Nov 10. PMID: 27831477. 2) 涌井智子. 国民生活基礎調査からみる独居高齢者のケアの実態と今後への示唆 (特集 一人暮らしの認知症高齢者). 2020;31(5):467-473. 3) White C, Wray J, Whitfield C. 'A fifty mile round trip to change a lightbulb': An exploratory study of carers' experiences of providing help, care and support to families and friends from a distance. Health Soc Care Community. 2020 Sep;28(5):1632-1642. doi: 10.1111/hsc.12988. Epub 2020 Mar 30. PMID: 32227545. 4) 川上浩美. 認知機能が低下し始めた独居高齢者を在宅でどのように支えていくべきか. 認知症ケア事例ジャーナル. 2010;3(1):55-58. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2010249471. 5) Gilmour H. Living alone with dementia: risk and the professional role. Nurs Older People. 2004 Dec;16(9):20-4. doi: 10.7748/nop2004.12.16.9.20.c2349. PMID: 15617400. 6) 松本一生. 【家族・コミュニティ・エンパワーメント 多様化する家族, 家族療法/家族援助の課題】 痴呆の遠距離介護と家族援助の課題. 家族療法研究. 2003;20(3):203-206. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004119799. 7) 岩藤魔子, 末光伸世, 豊福恵子, 林 益枝, 村下志保子, 神宝誠子. 包括的サポート体制の構築に向けた取り組み 認知症のある独居高齢者の支援. 旭川荘研年報. 2013;44(1):70-73. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014219055. 8) 浜田詩子, 荻谷みどり, 川上理子. 認知症をもつ糖尿病独居高齢者の自己管理の困難さ 一事例からの考察. 日看会論集: 在宅看護. 2018(48):59-62. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2018175785. 9) 浦上裕純. 様々な生活課題を抱える認知症独居高齢者への支援 地域で支える. みつぎ総合病誌. 2019;24(1):145-147. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2019264350. 10) 木村恵美, 上野 幸, 肥田野 弘美, 渡邊ルミ, 和田博直, 野村美子. 認知症のある独居高齢者に対する多職種連携の一事例. 八千代病紀. 2011;31(1):55-56. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2012096401. 11) 中川 敦, 遠距離介護者は何をしているのか—提案の判断と離れて暮らす家族の知識—, 島根県立大学『総合政策論叢』. 2015; 29.
---------	--

表3 認知症独居高齢者の家族を支援する対策に関する文献検索

【認知症独居高齢者の家族を支援する対策】		
検索日	2021年8月18日(医中誌) 2021年8月26日(PubMed)	
論文検索サービス	検索式	検索件数
PubMed	#01 Dementia OR "cognitive impairment"	231,377
	#02 "living alone" OR solitary	58,130
	#03 #02 AND family ("living alone" OR solitary) AND family	3,234
	#04 "distance care " OR (("live-out" OR "non-coresident") AND care)	71
	#05 #01 AND (#03 OR #04) (Dementia OR "cognitive impairment") AND (((("living alone" OR solitary) AND family) OR ("distance care " OR (("live-out" OR "non-coresident") AND care)))	109
	#06 #01 AND #03 (Dementia OR "cognitive impairment") AND ("living alone" OR solitary) AND family	104
	#07 #04 OR #06 ("distance care " OR (("live-out" OR "non-coresident") AND care)) OR ((Dementia OR "cognitive impairment") AND ("living alone" OR solitary) AND family)	176
	#08 #07 AND support ("distance care " OR (("live-out" OR "non-coresident") AND care)) OR ((Dementia OR "cognitive impairment") AND ("living alone" OR solitary) AND family) AND support	94
医中誌	#01 (独居高齢者/AL and (認知症/TH or 認知症/AL))	124
	#02 #01 AND (家族/TH or 家族/AL) (独居高齢者/AL and (認知症/TH or 認知症/AL)) AND (家族/TH or 家族/AL)	109
	#03 (別居介護/AL or 遠距離介護/AL or 通い介護/AL)	29
	#04 (#02 OR #03) AND (支援/AL or サポート/AL) ((独居高齢者/AL and (認知症/TH or 認知症/AL) and (家族/TH or 家族/AL)) or (別居介護/AL or 遠距離介護/AL or 通い介護/AL)) and (支援/AL or サポート/AL)	86
	#05 #04 and (PT=会議録除く)	57
ハンドサーチ	データベース検索から抽出した文献の引用文献等	0

表 4 認知症独居高齢者の家族を支援する対策に関する採用論文リスト

採用論文リスト	<ol style="list-style-type: none"> 1) Gibson AK, Richardson VE. Living Alone With Cognitive Impairment. <i>Am J Alzheimers Dis Other Demen.</i> 2017 Feb;32(1):56-62. doi: 10.1177/1533317516673154. Epub 2016 Nov 10. PMID: 27831477. 2) 涌井智子. 国民生活基礎調査からみる独居高齢者のケアの実態と今後への示唆 (特集 一人暮らしの認知症高齢者). 2020;31(5):467-473. 3) White C, Wray J, Whitfield C. 'A fifty mile round trip to change a lightbulb': An exploratory study of carers' experiences of providing help, care and support to families and friends from a distance. <i>Health Soc Care Community.</i> 2020 Sep;28(5):1632-1642. doi: 10.1111/hsc.12988. Epub 2020 Mar 30. PMID: 32227545. 4) 川上 浩美. 認知機能が低下し始めた独居高齢者を在宅でどのように支えていくべきか. <i>認知症ケア事例ジャーナル.</i> 2010; 3(1): 55-58. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2010249471. 5) 岩藤 魔子, 末光 伸世, 豊福 恵子, 林 益枝, 村下 志保子, 神宝 誠子. 包括的サポート体制の構築に向けた取り組み 認知症のある独居高齢者の支援. <i>旭川荘研年報.</i> 2013;44(1):70-73. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014219055. 6) Fowler-Davis S, Barnett D, Kelley J, Curtis D. Potential for Digital Monitoring to Enhance Wellbeing at Home for People with Mild Dementia and Their Family Carers. <i>J Alzheimers Dis.</i> 2020;73(3):867-872. doi: 10.3233/JAD-190844. PMID: 31884471; PMCID: PMC7081090. 7) Mulvenna M, Hutton A, Coates V, Martin S, Todd S, Bond R, Moorhead A. Views of Caregivers on the Ethics of Assistive Technology Used for Home Surveillance of People Living with Dementia. <i>Neuroethics.</i> 2017;10(2):255-266. doi: 10.1007/s12152-017-9305-z. Epub 2017 Jan 24. PMID: 28725288; PMCID: PMC5486509. 8) 木村 恵美, 上野 幸, 肥田野 弘美, 渡邊 ルミ, 和田 博直, 野村 美子. 認知症のある独居高齢者に対する多職種連携の一事例. <i>八千代病紀.</i> 2011;31(1):55-56. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2012096401. 9) 松本 一生. 【家族・コミュニティ・エンパワーメント 多様化する家族, 家族療法/家族援助の課題】痴呆の遠距離介護と家族援助の課題. <i>家族療法研究.</i> 2003;20(3):203-206. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004119799. 10) 浦上 裕純. 様々な生活課題を抱える認知症独居高齢者への支援 地域で支える. <i>みつぎ総合病誌.</i> 2019;24(1):145-147. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2019264350.
---------	---